

【翻刻】明治二年（一八六九） 小菅県示書―木版刷の法令―《抜粹》

〔資料館寄託 上馬場濱野昭家文書一八八四〕

☆王政 御一新ニ付 御高札面ハ勿論、追々

御布告之趣、自今以後被_ニ 仰出_一候

御旨趣堅可_ニ相守_一事、

①一、跡式之儀者、兼而書置いたし、村役人五人組

立会加判いたし、死後に出入無_レ之様可_レ致事、

附り、跡目無_レ之不慮_ニ死去候ハ、所持之品々

村役人五人組立会相改可_レ申事、

②一、婿嫁養子取組之儀、村役人五人組立会

能々入念、重而六ヶ敷義無_レ之様可_レ致事、

③一、独身之男女、長病相煩耕作成兼候もの者、

五人組申合助力いたし、田畑荒し不_レ申候様

可_レ致事、

④一、倒死候もの有_レ之節ハ役人立会死骸雜物等

相改、死骸其所を不_レ替番人付置、早速注進

可_レ致、尤尋来候者有_レ之ハ、出所等承届、是

又可_ニ申出_一事、

⑤一、用水之儀、先規之例を以て兼而相定置、出水

之節争論無_レ之様可_レ致者勿論、出水之節

村役人初惣百姓速_ニ出張、堤川除井堰

溜池等切_レ不_レ申様精々防方手当いたし、

平常通も無_ニ油断_一心付ケ、普請所不_レ及_ニ大

破_一候様可_レ致事、

⑥一、川々堤防其外普請之儀、総而永世之為

方第一ニいたし、見分而已を取繕ひ候様なる

如何之儀有_レ之間敷事、

⑦一、毎年御年貢割付出し候ハ、惣百姓并

入作之もの迄疑念を生し不_レ申候様ニ為_レ致_ニ

披見_一、無_ニ相違_一様割合いたし可_レ申候、尤御年貢

皆済無_レ之以前、米穀他所江差出し候儀

- 決而不_二相成_一候事、
 附り、御年貢米金村役人受取手形
 取かはせ置、重而_二出入無_一之様可_レ致事、
- ⑧ 一、御用船御年貢米積船等ハ勿論、総之
 難船有_レ之節者、近辺之者共早速_二駆付精々
 相働救助いたし、人命ハ勿論、荷物迄紛失
 無_レ之様可_レ致事、
- ⑨ 一、往還之道橋ハ不_レ及_レ申、脇道_二而も常々無_二
 油断_一繕_レ之、人馬通路無_二難儀_一様可_レ致、もし
 往還通り並木風折等有_レ之節者、差向
 通行さハリ_二不_二相成_一様致し置、早速其旨
 注進可_二申出_一事、
- ⑩ 一、東京并何方江用事有_レ之罷出候共、其事
 相済次第早速罷帰候様いたし、無益之
 長逗留不_二相成_一候事、
- ⑪ 一、邪宗門之義ハ 御制禁之条、不審成
 者有_レ之候ハ、速_二可_二申出_一、若隱置後日頭_二
 おいてハ、五人組ハ不_レ及_レ申、村役人共迄嚴重
 可_二申付_一事、
- ⑫ 一、在々ニ而能、相撲、操り狂言、芝居其外諸
 見世物類猥に不_二相成_一、売女、歌舞妓、好色
 類ハ停止勿論之事、
- ⑬ 一、博奕賭之諸勝負一切可_レ為_二停止_一、尤宿堅
 いたす間敷、若於_二相違_一者嚴重可_二申付_一事、
- ⑭ 一、火之元之義ハ五人組常々相互ニ心を付ケ大切
 にいたし可_レ申、自然村中ハ勿論近村たり共
 出火之節ハ速に駆付ケ、精々相働火を消シ
 可_レ申事、
- ⑮ 一、喧嘩口論有_レ之節ハ聞付次第出合取押へ
 可_レ申、人を殺し立退候もの有_レ之節ハ押へ
 置可_二注進_一、若取逃し候ハ、跡を慕ひ落着
 所迄見届預ケ置可_二注進_一、他所より手負

候もの来候ハ、村役人立会介抱致し置、早速
可申出^一事、

⑩ 一、堂宮山林に怪敷もの徘徊無^レ之様常々

可^レ致^二吟味^一、郷中ニ而も如^二従来^一番人差置、
不審なるもの有^レ之候ハ、差押へ可^レ申、自然

盗賊入候ハ、兼而村々手筈申含置、番人ハ

勿論、所之者共不^レ残駆付ケ捕押へ可^レ申、

不^二出会^一ものハ可^レ為^二越度^一事、

附り、盗賊捕押へ候節、猥ニ打殺し

不^レ申候様、精々心かけ可^レ申事、

⑪ 一、捨馬之儀致す間敷候、自然はなれ牛馬

有^レ之候ハ、村役人立会養置、其旨可^二申出^一事、

⑫ 一、名主組頭印形替り候ハ、印鑑を以て可^二申出^一、

其外之ものハ名主方迄印鑑出し置可^レ申事、

附、印判平日村役人江預ケ置候儀ハ不^二相成^一候事、

⑬ 一、村々五人組を最寄次第五軒宛組合、借地、

店借、社寺、門前、下人等ニ至迄諸事相互ニ

申合吟味いたし、悪事無^レ之様平日相

心得可^レ申候事、